

12月21日（木） ル・アーヴル市

ル・アーヴル港

本日は、本市の姉妹港であるル・アーヴル港を訪問した。ル・アーヴル港はパリ市中心部から北西に車で3時間程度の距離にある。到着後まず、espace André Graillet の会議室にてハロパ（HAROPA）の概要について説明を聴取したのち、ル・アーヴル港主催の昼食会に参加、その後、ル・アーヴル港、日本庭園を視察した。

【説明概要】

大阪港とは姉妹港であり、密接な関係である。今年、開港 500 周年を迎える。5年前、セヌ川流域の3港であるル・アーヴル港、ルーアン港、パリ港を一体管理するジョイントベンチャーであるハロパが設立された。一体管理はヨーロッパでは初めての試み。売り上げは、3億4,200万ユーロ。コンテナ取扱数は300万TEUを超える。ル・アーヴル港はフランスで最大のコンテナ取扱量を誇る。ロッテルダムと同じくらいの水深で潮の影響なく大型船も着岸できる。ルーアン港は西ヨーロッパで最大の穀物の輸出港でもある。パリ港は、大きな設備が附設している河川港というところに特色がある。世界が一番大きな野菜市場とも契約している。港湾業務が中心だが不動産業、スマートフォンを用いたネットワーク事業も行っている。最近、クルーザーの取扱いが特に伸びていて、ここ数年で50隻から150隻に増加し、2017年の来客数は約40万人である。税関申告は、書類が少なく簡潔で、申告にかかる平均時間は3分52秒と迅速である。ISO9001を取得している。日本企業も顧客として多く関係している。

セキュリティについて、一番大きな役割はテロ対策である。続いて、麻薬、不法入国者を未然に防いでいる。海軍や港湾警察も関与して、周辺の監視に当たっている。現在検討中であるのは、中央制御地を作ってビデオ監視システムを構築すること、ドローンを用いた監視、放射線でコンテナ等の中味をチェックすること。港は2010年からISO28000の認証を受けており、安全性が証明されている。



ハロパからの説明聴取の様子。床の地図はル・アーヴル港。

首相直属の安全監視委員会が関与し、サイバーセキュリティに対する取り組みも行っている。

(質疑応答)

Q：3港の統合メリット、シナジー効果は？

A：客へのサービス、対応簡略化、3つの港で税関等同じ様式でまとめ、客にとって便利。

Q：パリ⇄ル・アーヴル間で150キロと3港の距離は離れているが、どのように連携しているのか？

A：ハロパにそれぞれの港の担当がいる。営業面でシナジー効果が出ている。ハロパにはそれぞれの港から出向している。

Q：長い川筋のしゅんせつ費用は？

A：我々は固有のしゅんせつの船を持っているし、コスト削減になるので国全体の港でやっているものもある。

Q：しゅんせつする会社があるのか？

A：共通の船以外に各港別の船を直営している。共同の会社はない。

Q：一元化後の貨物量は増加しているのか？

A：非常に増えた。客が簡単にアクセスできるからだ。

Q：ハロパで予算や政策立案はどうやって一元化しているのか？

A：各港で予算、それ以外にハロパも予算を出す。

Q：港間の紛争は？

A：今まで紛争なし。客に港を選ぶ権利がある。客に適切なソリューションを与える。

Q：3港の水深は？

A：ル・アーヴルは水深17mで大きな船が入港できる。ルーアンは11m50の深さ。パリは6m水深だが、橋が低いのが問題。

Q：クルーズ客船へのニーズにどう対応？

A：クルーズもマーケットが大きくなっている。若い人やファミリーなどに浸透しており毎年2ケタの伸び。4・5隻のクルーザーが同時につけられる岸がある。

Q：大阪との姉妹港のメリット・強み、これからの日本・大阪に対する展望は？

A：大阪とはベストプラクティスなど、秘密事項なく腹を割って話し合っている。日仏貿易が増えており、それぞれの充実に役立っている、この9月にも大阪とクルーザー、マーケット、船舶の巨大化などについて情報交換した。

Q：大阪は夜、週末は貨物を休んでいるが、24時間運用、税関のスピード化、システムはどのようにしているのか？

A：今4世代目のソフトで物流と客の情報をまとめたシステムを使っている。あらゆる関係者のシステムが統合されているので、税関は24時間物を見ずほとんどの作業が可能となり、スマホで直接税関とアポイントを取れる。マイクロソフト社と共同開発した新しいソフトが数週間以内に稼働する。もうひとつの狙いは、ほ

かの港とつなげる、大阪ともつなげたい。物流がスムーズ化する。

Q：夜間では荷物の持っていく先に困らないのか？

A：我々は毎日 24 時間動いている。税関も 24 時間動いている。ル・アーヴル港には港湾警察が 24 時間いる。

Q：24 時間化はいつから？

A：20 年くらい前から。

Q：パリで労働ストライキが多いと聞くが、ストはない？

A：2009 年に改革を行い、すべての港ターミナルの作業を民営化した。その際 200 億ユーロくらいの投資をした。ストライキは非常に少ない。

Q：輸出入どちらが多い？

A：輸入が多い。

Q：港湾使用料なぜ安い？

A：非常に場所が広い。まだまだ倉庫を作る場所がいくつもある。

Q：ジョイントベンチャーを作ろうとしたいきさつは？

A：イニシアティブは 3 港自らが取った。国は口を挟んでいない。自分たちの意向で、どのようにしたらサービスを合理化できるかを考えた。

【ル・アーヴル港主催の昼食会】

次に、ル・アーヴル港主催の昼食会に参加した。エルベ・マルテル ル・アーヴルポートオーソリティ CEO、ハロパ社長をはじめ、リュック・ルモニエ ル・アーヴル市長、アニエス・カネイエ フランス上院議員ほかル・アーヴル港、ル・アーヴル市の関係者にご出席いただき、親睦を深めることができた。

（リュック・ルモニエ ル・アーヴル市長 挨拶要旨）

ル・アーヴル港へようこそお越しいただいた。ル・アーヴル港は快適な港ですので、港湾施設の視察をお楽しみください。関係者が努力している世界に開かれた港である。経済もそうだが、すべてのあらゆる分野での交流を願っている。

（木下団長 挨拶要旨）

本日は、このような席を設けていただき感謝申しあげます。アニエス・カネイエ フ



昼食会の様子。冒頭、ルモニエ市長より歓迎のあいさつをいただいた。

ランス上院議員、リュック・ルモニエ ル・アーヴル市長、そしてエルベ・マルテル CEOをはじめ皆様方にお会いでき嬉しく思う。

先ほど、ハロパ、ル・アーヴル港における港湾整備や港湾運營業務の取り組みについて、貴重なお話をお伺いした。

大阪港とル・アーヴル港は、1980年に姉妹港となり、35年以上にわたり、交流を深めてきた。これもひとえに、皆様方をはじめ、関係者の方々のご尽力の賜物であり、心から感謝申しあげる。

また、本年、ル・アーヴル市におかれては、市政50周年を、ル・アーヴル港におかれましては、開港500周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。大阪港も本年、開港150年を迎えることができ、こうした記念の年にル・アーヴルを訪問できたことを嬉しく思う。

今回の訪問が今後の両市、両港の友好関係の進展に大きく寄与することを期待している。



ル・アーヴル港のコンテナモニュメントの前でルモニエ市長（右から10人目）、マルテルCEO（右から1人目）らとともに。

【ル・アーヴル港視察】

次に、バスにてル・アーヴル港を視察した。説明概要は以下のとおり。

- ・ 500 周年の記念事業では、日本のアーティストの作品も紹介された。
- ・ 1830 年代に建てられた繊維類の倉庫を改良し、レジヤ施設、海運学校、エンジニアの大学などに作り替えた。
- ・ 現在、風力発電所を建設予定。全体の敷地は1万㎡くらい。
- ・ 港の区画に住所以外にコード番号が付けられている。将来的には、GPS で現在地がすぐにわかるようにして、港内で迷わないようにする。
- ・ 自然保護のために 200 億ユーロ使って川を開発し、45~50 種類の野鳥やカエルを育てている。動物たちは開発中はいったん外に出し、また戻した。広さは 2,000 ヘクタール。
- ・ ル・アーヴル港に泊まる時間は平均 6~10 時間。2,000~4,000 の積み下ろし。98%は予定された期間で積み下ろしでき、海運業者の満足度はほぼ 100%。
- ・ どんな気候天候でも、積み荷の対応が可能。波が荒い時はヘリコプターを使う。風が強い時は大きな船が岸に押し出されることもあるので、総勢 50 名で対応する。
- ・ 水深の確保も重要。満潮と干潮で 8 メートルの差がある。水深 15 メートルを保障できる港はヨーロッパに 2 つしかない。
- ・ 15 日前から税関手続きが始まり、積み出しは約 12 分で終了。85%はその後トラックで輸送。9%は船。残りは列車。最近は、船・列車に力を入れようとしている。
- ・ 昨年 82 のコンテナが盗難未遂に遭ったが、盗難件数は 0。



コンテナを再利用した学生寮



広大な自然が保護されている。

Q：積み込みのオートメーション化は予定しているか？

A：予定はない。人の雇用の問題があるし、自動化は信頼性が完全ではない。

Q：警備は警察もやるのか？

A：警察の監視チームがやっている。その他、民間の倉庫は遠隔で監視されている。

【日本庭園】

最後に、大阪港とル・アーヴル港の姉妹港提携をより具体的なものとするため建設された日本庭園を視察した。説明概要は以下のとおり。

- ・1993年、大阪港との友好の証として開園。宮前保子氏が現地に6か月滞在して建設した。面積2,000㎡。植物はヨーロッパで調達。岩はアルザス地方産で、宮前自身で選んだ。灯籠・門などは日本から運んだ。
- ・島国は自然が多く災害が多い。自然と共存というのが日本人の基礎をなしている。また、神道では八百万（やおよろず）の神がいるとされ、米、草虫にも神が宿るという考え。
- ・自然を眺めながら日常生活のやかましさを忘れ、自然の中でゆったりと過ごす。
- ・銀杏はおめでたい木。広島・長崎の原爆投下後、70年間は草木が育たないとされたが、銀杏が一番早く育った。
- ・日本庭園の6つの大切な要素は岩・水・植物・灯籠・橋・鯉。
- ・鯉は92年に4匹いたが、その子孫が数を増やしている。長寿のシンボルでもあり、寿命は80歳。
- ・茶室はないが、茶道をする場所はある。夜に行く場合は、灯籠に火を灯す。
- ・4月から10月に庭園を開放したが、切符は全部売り切れた。大人気である。ル・アーヴルの市民は大阪市には感謝している。
- ・画家のクロード・モネは、少年期をル・アーヴルで送った。ル・アーヴルは印象派を生んだ町。最初に彼の作品を買ったのは日本人。よって、日本とフランスの関係は大変強い。



日本庭園の外観。普段は門が閉まっている。



庭園内の様子

【各会派の所感】

〔大阪維新の会〕

視察をした本市の姉妹港であるル・アーヴル港は、ル・アーヴル港、ルーアン港、パリ港の3港湾管理一元化を成し遂げている。

本市では港湾管理一元化については、建設消防委員会を始めとして長年にわたり議論を積み重ねているが、権限、仕組みの面、リスクなどが論点となり、実現に至っていないところである。

フランスでは3つの港が紛争を起こす事は全く想定をしておらず、その質問につ

いてもナンセンスだと言うような表情で答えていたのが非常に印象深いところであった。

ル・アーヴル港の港湾管理一元化の成り立ちは、政治家や行政がリーダーシップを発揮し、港湾管理を一元化したのではなく、自然と港湾管理一元化するなわちジョイントベンチャーの話が3つの港から持ち上がったという点が示唆に富むところである。

一元化をした成果としては、3つの港の管理を統合することにより、選択と集中やコストカット、設備等への長期投資などの様々な経営戦略を実行することができ、コンテナ取扱量 3,000,000TEU を超えフランス最大の取扱量を誇っている。一元化したことによる成功事例と言える。

ル・アーヴル港の考察をさらに深め、本市においても港湾管理一元化の議論を深化させていきたいと感じた次第である。

ル・アーヴル港の説明聴取のあとには、昼食会にル・アーヴル市長も挨拶に駆けつけ、大阪港とル・アーヴル港の姉妹港としての重要性を話していただいた。また市長とのトークタイムでは都市間が友好関係を築いていくには、文化の違う両市を尊敬し理解し合うマインドが重要であると教えていただいた。

その象徴として 1993 年に開園した日本庭園がル・アーヴル港に存在する。庭園内の管理は行き届き、とても大切に日本庭園を保全しているのがよくわかった。フランスで日本文化に触れることができるとても貴重な場所で、現地の人には大好評であり切符はいつも完売とのことであった。

ル・アーヴル港視察を行い、港湾管理一元化や姉妹都市としてのあり方など非常にたくさんのことを学びとることができた。

【自由民主党・市民クラブ】

HAROPA では、テロ・麻薬・不法入国などの脅威から、ビデオ・ドローン・船による監視の取り組みをしているという。

ビデオや船は当然なのだが、ドローンをどう使っているのか興味深い。無人で遠隔操作のできるドローンによる監視システムは、広大なル・アーヴル港において、大変有効であると思った。

HAROPA の語源でもある、「ル・アーヴル港」「ルーアン港」「パリ港」の一元管理効果は、利用者に同じ提案、同じ提供ができる強みから、安心して利用してもらえ、管理側からしても顧客リストを統一してファイリングできるとの事である。それぞれの港は、規模も取り扱い貨物もまったく異なるので、市港湾と府港湾の関係に似ているのかもしれない。もう少し経過してからの課題を確認していく必要がある。

フランスは土地が広大で、しかも安い。さらに港湾施設料や手数料も安いという。これが他国の港との競争に優位となっていて、土地もまだまだ残っているという。

最後に、ル・アーヴル港と大阪港との姉妹港の証として、大阪市が建設したル・アーヴル港にある日本庭園を見学した。

大阪市とル・アーヴルとは昭和 55 年の姉妹港提携をきっかけに、さまざまな分野で交流が続いている。例えば大阪市立大学商学部とル・アーヴル大学国際学部は平成 2 年に学部間協定を締結して以降、現在も学生相互交流が続いている。

そうした姉妹港提携をより具体的なものとするためにル・アーヴルに建設されたのが日本庭園である。

かつて大阪市が姉妹港の記念に、この日本庭園を造り、ル・アーヴルからはワインを 1 万本寄贈されたとの事だった。

丁寧に剪定され管理されているというよりは、きれいに掃除がされているといった印象だ。灯籠はあるものの、日本庭園の特徴である東屋や茶室がない。そう思っていたら、ガイドさんから「是非とも、茶室を作っていただけませんか？ここでの茶会は、庭園に入りきれないほど大勢の方が来られます」との事であった。

日本庭園の建設時には現地では制作が困難な門扉やつくばい、石橋などは日本から輸送したが、20 年以上が経過した現在も搬入前の姿のまま設置されていた（写真参照）。日本の技術の高さを感じるとともに、

ル・アーヴルにおいて大切に使用いただいていることをうかがい知ることができ、大阪とル・アーヴルの絆の深さを実感することができた。この間の両市・両港の交流にあたりご努力いただいている関係各位に改めて感謝申し上げる。



ル・アーヴルへ搬入前の石橋とつくばい（上）、門扉（下）

現在も搬入時のまま使われていることがうかがい知れる。



[公明党]

開港 500 周年を経た桁違いの伝統を誇る本市との姉妹港として、昨年開港 150 年を迎えた大阪港との友誼として、ル・アーヴル港主催の昼食会をもって歓迎して頂いたことに大変感謝したい。

ハロパ (HAROPA) 社長のほか、ル・アーヴル市長、フランス上院議員など関係者との交流、親睦を図る中で、昨年 7 月開催した、本市での記念式典にハロパ社長が来賓出席して頂いたことに御礼申し上げ、ル・アーヴル港の発展の原動力となっている港湾整備や港湾運營業務の取り組みについて意見交換した。

今回の視察項目でもある、ル・アーヴル港、ルーアン港、パリ港の 3 つの港を民

間ジョイントベンチャー企業が一元管理することによるシナジー効果については、最先端のセキュリティーシステムとスマートフォンを使ったネットワーク事業、特に海軍、港湾警察が関与した高度なテロ対策、麻薬、不法入国者対策など、首相直属の安全監視委員会と連携したサイバーセキュリティーに守られた港湾管理によって、ル・アーヴル港はコンテナ輸送、ルーアン港は穀物輸出、パリ港は観光船というそれぞれの港の特色を活かし、手続き等も共通処理されたことで、3港の所在位置で150 kmもの距離間を感じさせることなく発展を遂げていることに感嘆した。

今後、大阪港でも物流と顧客情報をまとめた24時間稼働のネットワークシステムの導入を急ぐべきであると強く感じた。

最後に1993年に大阪港との友好の証として開園された日本庭園を訪問した。

港湾局から派遣された庭師が現地に半年もかけて建設されたと聞き、また、日本文化を随所に取り入れた庭園を訪れる人は多く、毎年庭園の開放期間の切符はすべて完売とのこと。

案内して頂いたのも日本人ボランティアの人であったのも大変親近感が持て、ル・アーヴル港が真に大阪港との絆を大切に下さっていると感じ、改めて関係各位に感謝したい。